

事務事業名	学力向上推進事業				担当	教育委員会 学校教育課 指導係			
政策名	1	「人づくり」～豊かなこころアップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 H29 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)			
施策名	1	確かな学力の育成							
関連個別計画					事業期間				
法令根拠									
予算科目	1.一般会計	10.教育費	1.教育総務費	3.教育振興費					
予算科目									
事業概要	真岡市総合学力調査及び全国学力・学習状況調査・とちぎっ子学習状況調査の結果分析を基に、各学校の学力向上に向けた取組を支援する。また、真岡市学力向上推進研究会や教員研究会を開催し、各学校の検証改善サイクルの構築と教職員の資質・能力の向上を図る。さらに、指導主事による学校訪問を行い、教科の指導力向上を図り、児童生徒の学力を向上させる。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)		④ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移							
4年度実績 ・例年4月に行われる各種調査は5月での実施となった。学力向上推進研究会は各校の主に学力向上担当教員を対象に、7月は指導と評価の一体化の授業改善について集合形式で、1月は調査問題を活用した授業改善についてオンラインで行った。また、第2回真岡市総合学力調査実施時期において、小中学校の理科担当教員対象に、学力向上対策研究会をオンラインで行った。 第2回真岡市総合学力調査後、学校への支援訪問を行い、各校の課題解決について協議を行った。 ・教職2～4年目教員支援事業は、事業を縮小し実施。 5年度計画 ・年2回の真岡市学力向上推進研究会 (7月、1月) ・教職2～4年目教員支援事業		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	真岡市学力向上研修会	回	2	1	2	2	2
		イ	教職2～4年目教員支援事業全体会	回	1	0	1	1	1
		ウ	教職2～4年目教員支援事業学校訪問	回	80	38	72	76	76
		エ							
		オ							
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移							
小中学校教職員		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	教員数	人	598	617	620	619	619
		イ	教職2～4年目教員数	人	40	38	60	76	76
		ウ							
		エ							
		オ							
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移							
教員の授業改善を図り、児童生徒の学力向上に努め、全国学力・学習状況調査において、全国の平均正答率同程度以上の結果が残せるようにする。比較は、とちぎっ子学習状況調査の県の平均正答率と同程度以上とする (全国学力・学習状況調査では、全国と市との比較ができないため)。		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
		ア	研修会后アンケート高評価の割合	%	98.8	99.0	99.1	99.4	99.4
		イ	小5とちぎっ子学習状況調査2教科合計平均正答率の県との差	ポイント	-0.8	-	1.2	1.6	1.7
		ウ	中2とちぎっ子学習状況調査5教科合計平均正答率の県との差	ポイント	2.3	-	2.0	0.2	0.3
		エ							
		オ							
(2) 総事業費の推移		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)		
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0	0	
		国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	
		県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
	一般財源	千円	41	10	59	94	83		
	事業費計 (A)	千円	41	10	59	94	83		

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 小中学校教育の充実の学びを育む「知育」及び施策の成果目標に結びつく。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 学びを育む教育「知育」は、市の重要施策である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 児童生徒一人一人の学力向上を図るためには、教職員の資質・能力の向上が欠かせないので必要である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 研修会や学校支援訪問を実施し、学力向上に向けた授業づくりを支援したり、各校の組織的な取組を支援する。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名：) <input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名：) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由) 各学校における学力向上の取組を推進し、授業改善にもつながる事業として類似するものはない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 成果をあげるためには必要最低限である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続 真岡市総合学力調査を基に各学校が自校の実態把握をし、授業改善や学力向上への検証・改善サイクルを効果的に推進するために必要である。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 ・内容のまとまりごとに育成を図る資質・能力を明確にし、計画的に指導すること。 ・学力向上の効果的な対策の共有																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 研修や学校支援訪問等、今まで行ってきた対策を着実に実施し、学力向上に繋げること。																							